

第1回検討会における主な意見の概要〔未定稿〕

【スケジュール案等について】

- 白紙で議論とっておきながら、7月に民間委託実施、11月に意見取りまとめ、というスケジュール案が出来てしまっており、根本的な議論は困難ではないか。
- 評価をして、最終的に11月に取りまとめる報告はどういう形になるのか。
- 閣議決定があるのはわかるが、この短期間のスケジュールで存廃を決めてしまっ  
て良いのか。
- 結論を出すまでにわずか半年ということであると、目標の中では、事業費及び人  
件費を削減することぐらいしか考えられない。数回予定されている検討会の中では、  
とても検討は十分はできない。
- 検討期間を延ばせと提案できるのか。
- 民間委託で手を挙げる人が全くいなかったらどうなるのか。または手をあげてき  
た人がきても、基準に達しない場合はどうなるのか。その時点で存廃を決めるのか。  
これまでの市場化テストの例ではどうなっているか。

【本検討会における議論の幅について】

- 民間委託に当たっては、単に運営をまかせるだけか、それとも、引き取ってもら  
えということまでいえるのか。
- 継続的なキャリア教育にはしごと館の立地は向いておらず、しごと館事業以外の  
方法で使うことを代替案として考えることは可能か。

【これまでの経緯について】

- しごと館オープンまでの議論の過程で、入場者がどのくらい見込まれるのか、そ  
の根拠、入場者獲得のルート、入場料のレベルはどうするのか、それに従って収支  
はどうなるのか、実際にはそれをどれくらい下回ったのか、それはなぜなのか、と

いうことの整理を伺いたい。

#### 【キャリア教育の必要性と私のしごと館の位置付け】

- キャリア教育は大切で、公的機関で進めるべきと考える。しごと館については、潰す必要はなく、多額のお金を使った以上、廃止ではなく、学校から行ってみたいと言われるように存続で検討すべき。
- しごと館は迫力があり、ニート・フリーター支援の流れの中の一場面として、若者が自立に向かっていく過程の中で、しごと館に連れて行くという意義はある。
- キャリア教育を否定する人は誰一人いないが、しごと館がキャリア教育に最適の方法かは別問題。

#### 【運営コストについて】

- パブリックサービスは必要だが、しごと館については、収支に10倍も開きがあり、これだとやはり議論は必要ということになるのだろう。
- キャリア教育は重要であり、しごと館は不可欠ではないが、役には立つ。その中で、しごと館の存廃の議論が出るのは、費用対効果の関係で、費用が大きすぎるという1点に尽きる。
- 指定管理者制度などではプロではない人が入ってくることで問題も生じている。しごと館もそうならないか。パブリックサービスをあまりにも経済合理性で切りすぎると、マイナス面もある。
- 運営費の収支を見る限り、事業としては全く成り立っていない。だから、違う発想で事業をやるのか、あるいはやる意義があるのか、そういう観点から議論すべきではないか。
- 私のしごと館のような施設は社会的価値があり、全体的な利益の測り方は存在しないと思う。しごと館に使ったお金が、失業者対策分野で税金を節約しているとか、そういうことを調べる方法はあるのか。
- 開館して4年。どれだけ効果があったか分からないままで存廃の話になっており、あまりに拙速。収支についての論点が最大の課題。

- 人件費だけでなく、事業費が莫大。事業を縮小せざるをえないだろう。
- もともと採算が取れないサービスだから公的機関がやってもいいという話が前に進まない。
- しごと館の目玉はしごと体験だが、修学旅行ではせいぜい2時間しごと館にとどまるだけで、体験メニューを1個やれるだけ。  
費用対効果ということを考えたときに、あれだけの立派な巨大な施設が不便な立地に一カ所だけあるというやり方がいいのかどうか。
- コスト削減努力は必要だが、しごと館は一般にある博物館や美術館とは異なり、教育施設であり、国が全額支出を賄い、運営を維持することを考えても良い。教育投資として見た場合の、数字で表すことのできない効果を定性的に評価すべき。

#### 【来館者、自己収入等の分析】

- 来館者数、団体来館内訳、収入のデータから見ると、収入増は、入場者数以外の要因で増えているという理解でよいか。
- 学校団体はきているが、個人の入場者数は減っている。これは、リピーターがこないために減っているという理解でよいか。
- 体験料について、値上げはあったか。
- 月～金と土・日とでは、同じサービスを提供しているのか、現状を知りたい
- 企業の広告収入があがれば、費用対効果についての批判もふきとぶかもしれない。そういったことを次回検討するための資料が欲しい。

#### 【民間委託の期間について】

- 短期の委託期間で受託してくれる民間事業者はいないのではないか。

#### 【サービス内容について】

- 私のしごと館の提供するサービスの中で、しごと館というハードでなければできないのは仕事体験だけではないか。他の事業はしごと館まで行かなくても、他の場所での展開も可能なのではないか。

- 職業についての気づきや情報提供は大事。ただし、上っ面をなめる程度のものとあまり効果がない。1回だけで職業意識の形成というのは無理で、多少継続的にやっていく必要があり、何らかの継続性をもった取組ができないか。
- 高校生の修学旅行の行き先が京都・奈良から沖縄、北海道、九州になる中、しごと館訪問はなかなか修学旅行の計画に乗りにくい。  
サービス内容が、今の中高生の興味・関心を引くようなものとなっているか、中学・高校で行っている座学のキャリア教育の内容との絡みで「しごと館ではこういう体験ができる」というようにする必要がある。文部科学省とも十分協議した中身を作り上げないといけない。
- 日本で重要なのはブルーカラー職種。中堅技術的な仕事が大事だということを強調することはできないだろうか。
- サービス内容や料金体系に枷をはめてしまったら、重大な間違いを犯してしまうのではないか。
- 当初のコンセプトとしては、全国レベルで提供すべきサービスとしてスタートしたのか、それとも地域限定のサービスで構わない、ということが予測されたのか。また、これは今後とも全国レベルで提供すべきサービスなのか。

#### 【目標値】

- 伸びしろがマーケットにどの位存在するのかが見えてこない、現状維持でしか判断できなくなる。
- 広告収入の取り方等別途考えるとして、事業収入は入館料をメインとしてやるとした場合、入館者数を増やす伸びしろとして、現状の稼働率は、マックスの稼働率または目標稼働率に対してどのくらいの割合で稼働しているか数字を示して欲しい。

#### 【バックアップ】

- 立地の問題、集客能力の問題が大きいが、この集客能力まで民間が請け負って受託するのはとても無理ではないか。集客能力について、継続的キャリア教育の必要性和併せたPR活動として、どの程度、民間委託業者をバックアップするのか、考えなければならない。

- 地域ごとに、学校に出かけていく「しごと館サポーター」がいて、しごと館サービスとともに、事前教育プログラムなどもあわせて提案する中でしごと館が位置付けられていくことが必要。
- 企業の社会貢献として、企業名がもっと露出してもいいのではないか。  
また、企業からの出向者はしごと館事業に参加して、どのように考えているのか、フィードバックをもらうべき。

【その他】

- キッザニアや他のテーマパークの方との意見交換の場を設けるべき。
- 現地視察は個別でも良いので早くいくべき。